

男1VS女100!?
ショートムービー史上最多キャストで贈る
女性専用車両で起こる密室ラブストーリー

「すみません！間違えて乗ってしまって！！」



「7:38」

- オッサンよ大志を抱け -

企画提出/真田幹也

企画意図

Thrilling

世界的に見ると、ごく一部の国で実施されている「女性専用車両」
日本でもこのシステムが導入されている。

パキスタンやイランでは、宗教的意味合いでこの制度が制定されている。韓国や台湾では、
一度導入したものの、その制度は廃止や無実化に追い込まれている。

日本では各事業者が任意に設定した制度として扱われて、本来痴漢対策として導入されたはずだが、
痴漢件数については各路線毎に増減がみられ、明確な結果が出ていない。また、混雑悪化などを理由として
設定を縮小・変更したケースもある他、モラルの低下や男性に対する差別的待遇等も懸念されている。

法律上も、男がこの車両に乗ってしまっても、現在罰せられる事はない。
この曖昧な制度に切り込み、唯一無二の、新しい作品を創ろうと考えます。

もし、この車両に1人の男が誤って乗車してしまったとしたら…
女100人の中に男1人、次の乗車駅まで途中下車不可の10分足らずの密室。
そのシチュエーションは、観客に多大なスリル(Thrilling)を与えるはずです。

Exciting

女性だけの空間に1人の男。そこにはどう考えても形勢不利な男VS女の戦いがあります。

かつて黒澤明監督が大人数の武士たちを、
そして深作欣二監督が大人数のヤクザたちを描いた様に、
観客を興奮、刺激(Exciting)させる迫力のある画を作るには、物語を生きている人間をどれだけ
同フレームの中に納める事が出来るかがキーになると考えます。
ショートフィルム史上最多キャストを揃え、乗車する人間の役創りを
エキストラも含め丁寧に行い、臨場感のある通勤ラッシュの画を創り上げます。
(海外に向けては、乗車率100%以上が当たり前の、異常とも言える日本の通勤ラッシュ事情を
アクティブに提示出来ればと考えています)

その上で、主人公2人の心温まるドラマから、劇的なオチに向かってストーリーを紡いでいきます。

「乱」「仁義なき戦い」などの激しいアクションシーンはありませんが、
車両内の男VS女の戦いは、それらに負けない迫力のある群衆芝居を創ります。

Moving

一刻一秒を争う、大ピンチの主人公の気持ちの動きと共に、動いて行く急行電車。

電車が駅を通過して行く画に重ねて、男と女の気持ちの変化を描きます。

1年振りに再会した男と女の描写を美しく描き、純愛ラブストーリー調に話は進み、劇的なオチに向かいます。

・見始めた時と見終わった後は、まったく違う作品

・最後まで見てから、もう一度最初から見直したくなる作品

を目指します。感動(Moving)させるのはもちろんの事、この作品ではその先にある衝撃も狙います。

登場人物／イメージキャスト

男・〇〇（サラリーマン・40代）/仁科貴

女（OL・男の元嫁）



その他、女性専用車両の乗客たち（オバサン・OL・学生など）

あらすじ

地下鉄の駅に向かう階段を全力で駆け下りている男。時計を見ると、「7:37」。いつもの電車まであと1分。やばい！絶対に遅れる訳にはいかない！さらにスピードを上げる男。改札が見えてくる。少しくたびれた鞆から、タスポを取り出し改札のセンサーに翳す。その時の「ピッ」という音が、通勤ラッシュが嫌過ぎて、誰かの舌打ちに聞こえてきた事さえある。そんな事を思い出しながらホームへ。電車が居る！間に合った！ホームの時計が「7:37」から「7:38」に変わる。発車のメロディと共に、電車に飛び乗る男。扉が閉まり、ほっと一息を付く…と、そこには見た事のない光景が広がっていた――。

焦って周りを見ると、周りは女だらけ。360度、周りの何処を見ても、女、女、女！冷やかな女たちの視線、そして香水の匂いに男は困惑し始める。そこに追い討ちをかける様に、どこからかオバサンたちが、男を追い出そうとし始める。「ちょっと、ここ女性専用車両よ」「出て行きなさいよ！」…と言われても電車は走っている。急行に乗った筈だから、次の駅まで確か8分…生地獄に来てしまった事を悟る男。「すみません！間違えて乗ってしまって！！」男1人、女100人の車内に言葉が響き渡る。しかし、そんな言葉を無視してオバサンたちは男をドア側に追い込んでいく。「このキチガイ！」「何考えてんのよ！！」体中から汗が噴出していく…、恐怖から周りの女の顔を見られなくなっていく男。そんな騒ぎを見守るひとつの視点が。「あの、すみません、ちょっとすみません…」赤いコートを着た1人の女が、他の女たちを掻き分け、男に近づいてくる。「〇〇？」ふと自分の名前を呼ばれ、びっくりして顔を上げる男。とそこには、別れた元嫁が立っていた…。

離婚して1年が経つ2人は、小声でぎこちなく話を始める。お互いの近況の事、そして男が最近会っていない、子供の事。電車が駅を通過していく…。男は家族だった時の思い出も話始める。電車が次の駅を通過していく…。2人は良き時を思い出していた。車内アナウンスが、停車駅が近づいた事を知らせ始める。男は勇気を持って、言葉を発する。「…もし、良かったらやり直さないか？」迷っている女。女の気持ちを悟るかの様に、電車が駅に停車する。「ほら！出て行きなさいよ！」待ってましたと言わんばかりに、オバサンたちの再攻撃が始まる。男は突き出され、車外に放り出される。閉まっていく扉。女に向かって手を振り続ける男。女は少し笑顔になっていく。ホームで見送る男から電車が離れていく。女を追いかけるのか、引くのか？その時、男が取った行動とは――。

監督/脚本

真田幹也(sanada mikiya)

東京都出身。演出家蜷川幸雄の元で修行を積み、02年初監督作品を発表。
05年監督作『セラミド』がTBSデジタルコンテスト6+1にて奨励賞を受賞。
06年文化庁「若手映画作家育成プロジェクト」に選出され『Life Cycles』を監督する。
その他『ママのお気に入り』（アルファロメオHPにて公開中）
『Colorful』（第3回八王子shortFilm映画祭上映作品）など。現在長編準備中。
自転車キンクリーツカンパニー所属。公式HP <http://sanamiki.com/>

<主な監督作品>

- 2014年『オオカミによろしく』
(製作/ちちぶ映画祭 ちちぶ映画祭2014 グランプリ受賞)
- 2014年『道玄坂事変』
(製作/渋谷芸術祭 MMC映画少年映画祭準グランプリ受賞)
- 2013年『キスナナ the Final』
出演/池松壮亮 大林素子 渡辺哲
(製作/ショートストーリーなごや 2014年高砂市観光協会賞受賞)
- 2007年『Life Cycles』
出演/酒井敏也 石井めぐる 深水三章
(製作/VIPO ユナイテッドシネマ他にて劇場公開)
- 2007年『tactics』※第9回伊万里・黒澤映画祭 入選
- 2005年『セラミド』※ドイツ・ニッポンコネクション上映 他

制作形態

- ・ 尺数：15 分前後
- ・ 制作：未定
- ・ フォーマット：HD
- ・ アウトプット：各種国内外映画祭

メインターゲット

20 代～50 代 社会人男女

ショートムービー好き、電車好き、特撮好き

撮影予定日（仮）

- ・ 2016 年 12 月以降の 2、3 日（別日リハーサル 1 日）

